

平成 23 年 3 月 31 日

新潟青陵大学 学長殿

平成 22 年度新潟青陵大学共同研究 報告書

1. 研究課題名

要支援高齢者の食品摂取状況と健康感との質的分析について

2. 研究組織

代表者: 新潟青陵大学 看護 学科 職名: 助手 氏名: 田辺生子 印
分担者:

所 属	職 名	氏 名
北里保健衛生専門学院	専任教員	井上智代
新潟青陵大学看護福祉心理学部看護学科	助教	瀬倉 幸子

3. 研究期間 平成 22 年4月1日 ~ 平成 23 年3月31日

4. 研究成果の概要(当該研究期間のまとめ)

要支援高齢者の食品摂取状況が健康感に及ぼしている状況について、半構造的面接法を用いたフォーカスグループインタビュー調査を実施し、インタビュー結果を質的に分析して検討を行った。

1. 研究対象:介護予防サービスを利用し、在宅で生活している要支援高齢者11名
2. 実施期間:平成23年2月末日
3. 実施場所:Z県Kデイサービスセンター会議室
4. 方法

研究協力機関(Z県Kデイサービスセンター)に研究実施協力(研究対象者の紹介、場所の提供等)を依頼し、同意を得た。調査時に研究協力機関から紹介を受けた対象者へ研究者から研究の趣旨を説明し、同意を得た上で、フォーカスグループインタビューを実施した。対象者へのフォーカスグループインタビューの回数は1回、1回あたりの実施時間は60分、人数は5~6名にて実施した。インタビュー内容は、対象者の食行動や健康状態に関すること等であり、インタビューガイドに沿って実施した。

5. 倫理的配慮

研究協力機関、及び対象者には、研究目的・内容・研究参加の自由意思、研究を断ったことによる不利益は被らないことを説明し、了承の上で調査を実施した。また、研究結果は、研究協力機関や対象者個人を特定した内容にならないように配慮した。

6. 結果

インタビュー実施者は11名(男性6名、女性5名)。平均年齢83.3±9.1歳、介護度は要支援1・2だった。インタビュー内容の結果は、食事と健康に関しては、「食事内容」「食事への価値観」「加齢や疾患による食行動の不便さ」等が抽出された。高齢者は、野菜は身体によく、油脂類や肉類は身体に悪いという考えが根強いと推察された。また、食行動の実際は、「(複数世代の同居では)出されたものは黙って食べる」「日用品の購入は欲しい物より価格優先」「日用品の購入は女性で、男性は購入しない」「買い物のための地理的条件」等が抽出された。

5. 交付決定額(配分額) 400,000 円

6. 研究発表

区分	学会誌名・学会名等	発表者	論文名・演題名等	年	月
発表予定	第4回新潟青陵学会	田辺生子	未定	11	